

碩心

社団法人 日本詩吟学院岳風会 認可
神奈川 碩心会 発行

現在 会員数 171名
2月 地区名 299名
1年 地区計 (526名)
61年 地区計 (526名)
返葉大 ()

61年 2月号 (163号)
2月 発行 者 萃
根 岸 岳 集
編 村 愛 岳
中 村 愛 岳

吟詠修練の動機

堀内支部D 千葉 美風

子供の頃から私は芸事が好きで、特におどりは恐いもの知らずでいろいろな舞台をふみまわした。今の自分からは想像できませんが、内気な面があったので、華やかな部分に憧れを抱いていたようです。大学時代は演劇部でかなりならしたのですが、そんな私も年頃となり、なんとなく中途にやめてしまいたい十数年が過ぎた或る日のことでした。「白鷺城」という舞を見ていたとき、眠っていた夢がキラリと光り心騒ぎ、その日の中に門を尋ね入会致しました。ところが何と今迄に聞いたことのない「詩舞」ということでピンときませんでした。詩吟の舞：その言えは以前父がよく武道始め等に、鞭声囁々とか、山川草木一等と口ずさんでいました。あれが吟なんだなあと更めて思ったのでした。

と思います。これからも自分なりに一歩一歩進んで、これからの自分に楽しみを求めてゆきたいと思います。

又この度総本部準師範講習会に緊張の思いで出席させていただきました。先生方のお話に感動、胸うたると一日でした。同席の方は皆さん遠くからこられた方々でしたが、何とその熱心さには驚くばかりでした。私もその時感じましたことは、何としても指導者たる者は熱心で、努力と、又愛なくしてはと思えました。その中で正しい吟じ方、正しい発声等々に力を入れて、私なりにこの素晴らしい吟道を育ててゆきたいと思えます。

準師範認許 (一月十九日付)

千葉美風さん(堀内・D)が右認許されました。

県本部高段者審査会

七段 2月9日・八段 2月16日・皆伝以上
2月23日・いずれも平塚農業会館

右審査に合格された方は左記の通り許
証料を納入して下さい。(許証部)

七段・八段(四千元) 二月二十五日迄に
皆伝・ (二万円) 三月十日迄に

九段・十段(五千元)

(改正料金が適用の時は追加納付を願います)

創立五十年記念

第89回全国吟道大会

祖宗範木村岳風先生が、日本詩吟学院を創立されてからこの三月で五十年を迎えることになりました。これを記念して創立五十年記念大会が行われます。

とき 昭和61年3月21日(祭)十時開会
ところ 中野サンブラザ

(神奈川県本部からは三百二十名参加)

合吟 神州 女子

合吟 神州 男子

合吟 コンクール(東芝)・(幸吟)

独吟 自詠 根岸岳萃

独吟 新田岳悠

(碩心会からの参加は左記の通り)

(男子)

根岸岳萃 加藤岳相 三井岳瓏

沼田洗岳 下條亮岳 井沢潮岳

小峰桜岳 加藤圭岳 中村幸岳

竹石憲岳 千葉劔岳 秋元梁岳

(女子)

中村愛岳 森田暁岳 岩崎恵岳

鈴木孝岳 杉山雪岳 佐藤湧岳

矢嶋悦岳 黒崎李岳 綾部秋岳

広瀬翔岳 村田静岳 渡辺秀岳

石渡桂岳 (以上25名)

許証料(改正)

社団法人 日本詩吟学院岳風会

(昭和61年4月1日より)		
段・伝位	雅号	許証料
級位		1,000
初段		2,000
二段		2,000
初伝	泉号	3,000
三段		3,000
四段		3,000
中伝	山号	5,000
五段		5,000
六段		5,000
奥伝	風号	10,000
七段		10,000
八段		10,000
昏伝	下位岳号	20,000
九段		20,000
十段		20,000
総伝	上位岳号	30,000

(少年少女・高令者は無料)

碩心会春季審査会のお知らせ

とき 三月三十日(日)午前十時開始

ところ 逗子図書館ホール・社会教育会館

審査料 少年・高令者：五百円

その他一般：七百円

支部毎にまとも早目に許証部へ

修正された額を支部毎にまとも

四月十日迄に許証部へ

県本部主催

選抜者大会予選会(神・静)

とき 61年4月6日(日)

ところ 平塚農業会館

資格 奥伝以上(三回以上入選者は除く)

問題 一、二、三教本中より絶句一題

申込切 三月十日迄

応募人員 百名

(その中十名が選出され本大会に出場)

県本部主催

中国友好の旅へのお誘い

とき 61年8月16日(土)~8月22日(金)

主な コース 上海・鄭州・密県・登封・洛陽・南京他

旅行費 二十九万円

申込切日 5月31日(土)

(詳細は加藤岳相先生まで)

指導者偶感

会長 根岸岳萃

碩心会は昭和十二年、松井洋先生によって創立されたことは皆さんご存知の通りです。それは祖宗範木村岳風先生に「今習ったものをすぐ指導することは吟道を勉強する上に大変プラスになりますヨ」と言われたことに起因して、逗子の青年会の人に試験台になって戴いたのが始まりですと、松井先生は申されており、現在碩心会は指導者の皆さんのご努力で、大きく発展していることは誠に慶びに堪えません。然

し指導に追われ、自己の前記「習う」こと
がおろそかになつてゐる方はいませんか？
指導者にも「習う」教場があるはずで
まして最近和歌の読み方・詠法も大分
変りました。漢詩にしても、読み方・吟法が
従来と変つてきました。又会員の方は貴重
な時間と正しい吟道（吟法も含め）の勉強
に教場に来られるのですし、指導者は自分
なりに完成された吟法で指導することが必
要ではないでしょうか。吟聖祖宗範は「教
える」と言う言葉は絶対口にされなかつた
そうです。何時も「さあ一緒に吟道の勉強
をしましょう」と。

詩の内容・作者の人間性、生きた時代等
を考えれば吟道は何時迄も勉強することば
かりです。新しい年を迎え、碩心会の指導
者は初心を忘れず、謙虚に会員の方々の先
頭にたつて、共に勉強する気持で、碩心会
発展に活躍されますことを期待します。

自然と人生（二月）

（初午）
初午の太鼓撃々たり。梅花は己に六七分、
麦は未だ二三寸。「奉獻稻荷大明神」の旗
村々に立ち、子女衣を更めて往来し、人
の振舞酒に酔はざるはなし。（二月一日）

練吟メモ

。奥伝の審査課題（目次）に「漢詩七言律
詩・前兵児の謡・頼山陽」があります。お
気付きのことと思ひますが、この詩は七言
律詩ではなく、七言古詩です。審査課題（
黄本）の目次の分類に當つて、泉本部が、
便宜上律詩に組み入れたものでしょう。
この詩は、山陽三十九歳の九月、鹿兒島
に滞在したとき、土地の俚謡「兵児歌」を
聞いて、それをそっくり漢詩の「兵児歌」
に作り替へたものです。脚韻もそろえ、さ
すがは頼山陽と称される出来ばえです。俚
謡の方は、あまり市販の本には出ていない
ので、参考までに取り上げて見ました。
。「前兵児の謡」は、教本一ノ70に載つて
います。奥伝以上の方は暗記されています
が、比較しやすいように掲げました。

袖 腕に至る
腰間の秋水 鉄断つべし
人触るれば 人を斬り
馬触るれば 馬を斬る
十八 交を結ぶ 健児の社
北客 よく来らば 何を以てか酬いん
彈丸 硝薬 これ膳羞

客 なの属えんせずんば
好し 宝刀を以て かがが頭に加えん
。右の漢詩の元唄（俚謡）は、次のとおり
裾は すねまで
袖は 腕
腰の剣は 鉄も断つ
人がさはれば 人を切り
馬がさはれば 馬を切る
若さを誓ふ 兵児仲間
北の客人 来るならば
煙硝 さかなに 彈丸会釈
それを聞かずに 来るならば
首に刀の 引出物

。教本に「語釈」がないので、こゝで少々
注を加えておきましょう。
「兵児」は「兵子」とも書き、薩摩の方
言で、十五歳以上二十五歳までの若者をい
う。戦国以来、常に隣国肥後と対抗する必
要上兵子歌を作り、結社の士気を鼓舞し、
敵がい心を起こさせた。「舒」は、すねの
こと。「秋水」は剣の異名。「健児の社」
は島津藩の若者たちの結社（十八歳になる
と結社入りするといふ説と、十八の結社が
あったとする説とある）。「膳羞」は、ご馳
走のこと。「北客」は、肥後の軍勢を指す。
肥後（熊本）は薩摩の北に当る。「好し」
は、はなむけ、引出物をいう。

碩心会61年初吟会会計報告

(61.1.19 於 逗子京急ビーチセンター)

収入の部			支出の部		
摘要	金額	備考	摘要	金額	備考
会費	822,000	3000×274	会場借上料	180,000	
指導者寄付	25,000		持込料	24,000	
祝儀	20,000	鹿島岳久先生 逗子A 金指様 上山口 沼田様	心付	8,000	
金子酒店値引分	2,730		当み	358,800	1300×276
計	869,730		まみ	82,800	300×276
現品寄附			（ビール）	44,800	140本
清酒 桜山A		穂苅 星風様	一級酒(1升瓶)	5,610	3本
"		金子 酒店 "	" (1合瓶)	60,720	276本
ブドウ酒		鈴木菓子店 "	缶ジュース	27,600	276本
			みかん	22,400	560ヶ
			景品代	7,500	
			看板揮毫料	5,500	
			先生お車代	3,000	
			会議費	7,500	打合せ3回 会場費茶菓代
			コピー代	7,800	
			お茶	1,200	
			消耗品代	2,800	
			通信連絡費	1,700	
			担当支部へお茶代	15,500	
			残金(支部会計へ繰入れ)	2,500	
			計	869,730	

昭和61年1月25日 以上の通り報告いたします。

担当支部代表 銀 詠 橋本 果風 ㊟
山の根 栗原 丈風 ㊟
逗子B 荒谷 易風 ㊟
謙 訪 加藤 健山 ㊟
平 松 鈴木 蒼山 ㊟

企画部長 千葉 秀岳 ㊟
" 副部長 綾部 秋岳 ㊟

初吟会盛会に終る

一月十九日、京急ビーチセンターで、名参加、盛大に、和やかに行われました。今年には総本部事業と重なり、松井、常盤、安孫子先生の参加を得られず残念でしたが、鹿島先生が御参加、花を添えて下さいました。年に一回であるう根岸、鹿島両先生の和服袴姿も楽しみの一つです。担当の皆様方、お骨折ありがとうございました。

(入会)

- 724 森 亜紀(少) 横須賀市林二一六一一六
- (逗子A) (電) 〇四六八一五七一〇五六二
- 725 曾村 静山(再) 葉山町堀内一〇四五
- (堀内・F) (電) 〇四六八一七五一〇三四二
- 726 阿部 正 横須賀市汐入町四一五
- (唐木山) (電) 〇四六八一二四一三二三四
- 727 石川 忠義 葉山町上山口八二五
- () (電) 〇四六八一七八一七二三六
- 728 小峰 悠山(再) 葉山町堀内九一〇
- (滝の坂) (電) 〇四六八一七五一〇六四五
- 729 藤原 華泉(再) 葉山町一色六三一
- () (電) 〇四六八一七五一四三四一
- (退会)
- 234 福田 邦山 (滝の坂)
- 304 上村 真泉 (滝の坂)